

富山高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	哲学 I
科目基礎情報						
科目番号	0086		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 1		
開設学科	電気制御システム工学科		対象学年	4		
開設期	前期		週時間数	前期:2		
教科書/教材	教科書は使用しません。各テーマ毎に講義レジュメと資料を配布。					
担当教員	宮崎 真矢					
到達目標						
○「主客一致問題」に対してデカルト、カント、ヘーゲルらが与えた解決策を理解し、批判的に評価することができる。 ○「客観的真理」の想定を無効化しようとするニーチェの着想を理解し、批判的に評価することができる。 ○デカルトからニーチェに到る「真理」をめぐる思索をふまえながら、自分が「真理」をどう捉えるかについて自分なりの結論を下し、論証することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	「主客一致問題」に対してデカルト、カント、ヘーゲルらが与えた解決策を理解し、これらを評価・批判する自分の主張を説得力ある仕方 で論証できる。		「主客一致問題」に対してデカルト、カント、ヘーゲルらが与えた解決策を理解し、批判的に評価することができる。		「主客一致問題」に対してデカルト、カント、ヘーゲルらが与えた解決策についての理解が不足し、適切な論評が行えていない。	
評価項目2	「客観的真理」の想定を無効化しようとするニーチェの着想を理解し、これらを評価・批判する自分の主張を説得力ある仕方 で論証できる。		「客観的真理」の想定を無効化しようとするニーチェの着想を理解し、批判的に評価することができる。		「客観的真理」の想定を無効化しようとするニーチェの着想についての理解が不足し、適切な論評が行えていない。	
評価項目3	デカルトからニーチェに到る「真理」をめぐる思索をふまえながら、自分が「真理」をどう捉えるかについて説得力ある仕方 で論証できる。		デカルトからニーチェに到る「真理」をめぐる思索をふまえながら、自分が「真理」をどう捉えるかについて自分なりの結論を下し、論証することができる。		デカルトからニーチェに到る「真理」をめぐる思索についての理解が不足し、自分が「真理」をどう捉えるかについての考察も不十分で、適切な論証が行えていない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 C-1 JABEE 1(2)(a) ディプロマポリシー 3						
教育方法等						
概要	善悪美醜の価値に普遍性はあるか。それとも各人の価値観が相対主義的に分立するだけなのか。2年生で取り組んだこのテーマを哲学 I では「真理」の成立可能性として捉え直し、デカルト、カント、ヘーゲル、ニーチェら近代ヨーロッパの哲学者が示した手筋に従って考察します。邦訳された哲学者のテキストないしそれらについての解説書を的確に読み解けるようになること、そこで示された論点に対して自分なりの論評を加え、「真理」をいかにとらえるかについて、自らの考えを論証できることが、この授業の目標です。					
授業の進め方・方法	講義（100%）、授業形態 A（教員→学生）70%・B（教員学生）30%、教育手法 1（普通の授業）					
注意点	ほぼ毎回レジュメと資料を配るので、受講者は毎回出席して資料に漏れないようにすること。授業で求められるのは、テキストを読み解く力、それとの対決を通して自分の考えをまとめる力、それを表現する力です。極力休まずに出席して、授業の中で自分で考えるトレーニングを積んで下さい。なお学生の理解度に応じて授業計画を変更する場合があります。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	「哲学する」とはどのような営みか		学習・評価方法のガイダンス 哲学を人間の営みとしてとらえる視点を理解する。	
		2週	「哲学する」とはどのような営みか		「哲学する」営みの特質を理解する。	
		3週	「真理」への問いー若き竹田青嗣の苦闘		「真理」を問うこととわれわれの実生活との関連を理解する	
		4週	哲学の思考法		哲学的思考の主要ルール（概念・論理の使用、原理の提示）を理解する。	
		5週	確実な「真理」は存在するかーデカルトー		デカルトの方法的懐疑を読み解き、様々な知識の確実さ・不確実さを吟味する。	
		6週	確実な「真理」は存在するかーデカルトー		デカルトが示した「考える私の存在」の確実さ、明晰判明という真理基準という知見について、批判的に吟味する。	
		7週	確実な「真理」は存在するかーデカルトー		デカルトが突き当たった「主客一致問題」、およびその解決の試みについて理解する。	
		8週	確実な「真理」は存在するかーカントー		カントによる「主客一致問題」の解決策を理解し、それを批判的に評価する一人間の認識の限界	
	2ndQ	9週	確実な「真理」は存在するかーカントー		カントによる「主客一致問題」の解決策を理解し、それを批判的に評価する一現象認識のメカニズム	
		10週	確実な「真理」は存在するかーカントー		カントによる「主客一致問題」の解決策を理解し、それを批判的に評価する一人間の立場の「真理」	
		11週	確実な「真理」は存在するかーヘーゲル		ヘーゲルによる「主客一致問題」の解決策を理解し、それを批判的に評価する一精神の成長と労働	
		12週	確実な「真理」は存在するかーヘーゲル		ヘーゲルによる「主客一致問題」の解決策を理解し、それを批判的に評価する一絶対知と新たなパラドクス	
		13週	伝統的「真理」観の転覆ーニーチェ		伝統的な「真理」観を根本から覆そうとするニーチェの主張を批判的に評価するー「認識」「客観」「真理」の正体	

		14週	伝統的「真理」観の転覆—ニーチェ	伝統的な「真理」観を根本から覆そうとするニーチェの主張を批判的に評価する—欲望の遠近法、「真理」への信仰
		15週	「真理」をどう考えるか	「客観と一致する認識=真理」という想定を無効とみなすニーチェや現象学の観点に立って、「真理」の成立可能性を再考する。
		16週	レポートの返却、講評	返却された期末レポートと講評から自らの思索を顧みる。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地理歴史的分野	民族、宗教、生活文化の多様性を理解し、異なる文化・社会が共存することの重要性について考察できる。	3	
			公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	

評価割合

	レポート						合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
基礎的能力	100	0	0	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0